

立石 泰広氏(53)

自民党②・川口市

「至誠」胸に防災重視

「東日本大震災は津波と原発事故。

埼玉県や川口市の防災を考える場合は、20年前の阪神大震災を参考にすべきだと思う。2期目の県政舞台ではこの問題に取り組む。防災、医療、福祉を重点に広い視野で取り組みたい」

西川口出身。中学から高校2年まで東京・町田市の玉川学園で寮生活。「ここで吉田松陰の『至誠』の意味を知った」と言う。玉川大学を出て父の会社で働き、川口青年会議所(JC)でまちおこし活動に参加。1991年、29歳で新藤義孝氏、奥ノ木信夫氏らとともに市議に初当選した。3人は互いに「同志中の同志」と言う。

昨年3月の県議補選で県議に初当選。翌日から駅前で早朝の駅立ちを始めた。いつの間にか小学生たちとハイタッチをする仲に。今回の県議選の最終日夜、川口駅東口に候補者たちが並

んだ。改札口から人の波が来る。その中から小学生が自分の方に駆け来て来た。胸が熱くなったという。

